

令和7年度

『全国学力・学習状況調査』の結果

この調査は、全国的な児童生徒の学力と学習状況を把握、教育施策の検証・改善を目的として、小・義務教育学校6年生と中学校3年生・義務教育学校9年生を対象に、文部科学省が平成19年度から実施しています。

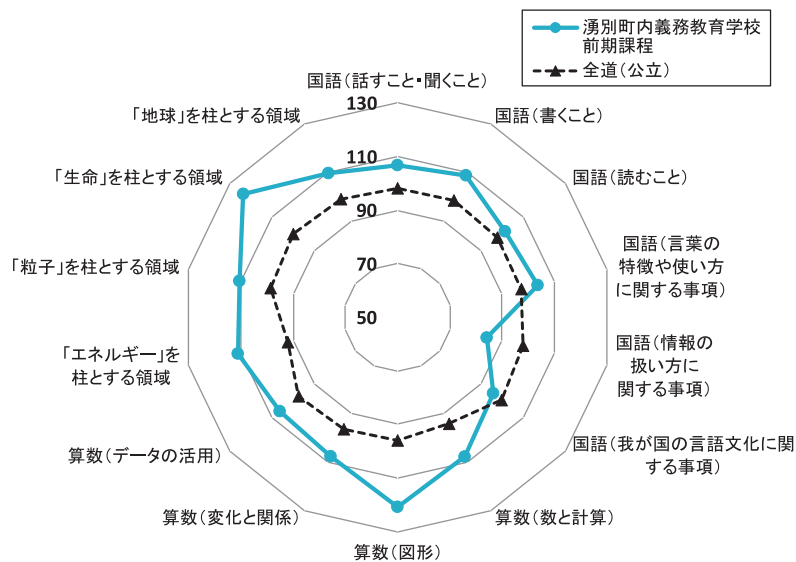
令和7年度は国語、算数・数学、理科の3教科で実施されました。湧別町の子どもたちの様子について、その調査結果の概要をお知らせします。
(※理科・英語は3年に1度実施しています)

義務教育学校前期課程（学校数：3校、児童数：49人）

国語（話すこと・聞くこと、書くこと、読むこと、言葉の特徴や使い方に関する事項）、算数（すべての項目）、理科（すべての項目）の3教科12領域で全国および全道平均を上回りました。

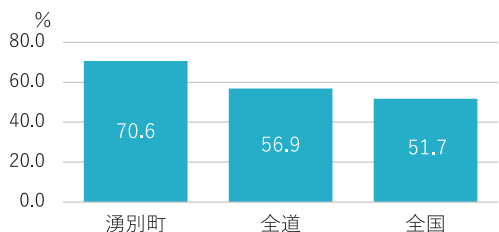
【教科全体の状況】

教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート（グラフ）で示したもの
(湧別町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出)

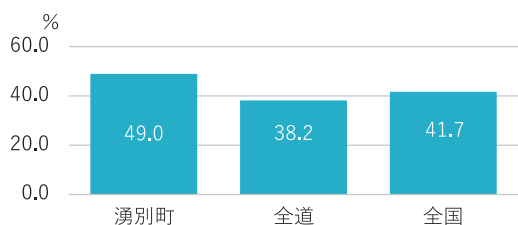


【児童 質問調査】

《理科》理科の勉強は好き

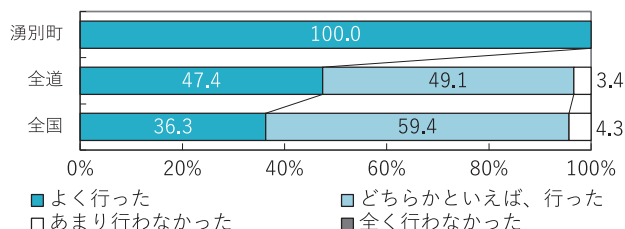


《算数》算数の授業の内容はよくわかる

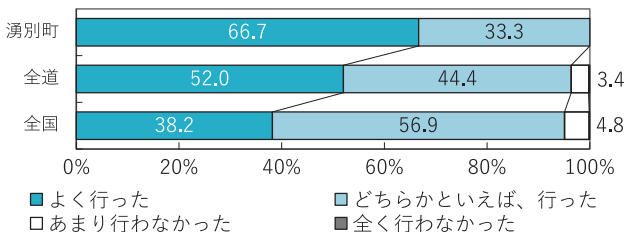


【学校 質問調査】

《全般》日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行った



《算数》具体的なものを操作するなどの体験をともなう学習を通して、数量や図形について実感をともなった理解をする授業などを行った



【分析】

●理科の授業において、前年度までに日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行ったことにより、理科の勉強は好きと回答した児童の割合が全国・全道を上回ったとともに、理科のすべての領域で平均正答率が全国・全道を上回ったと考えられる。

●算数の授業において、前年度までに具体的なものを操作するなどの体験をともなう学習を通して、数量や図形について実感をともなった理解をする授業などを行ったことにより、算数の授業の内容はよくわかると回答した児童の割合が全国・全道を上回ったとともに、算数のすべての領域で平均正答率が全国・全道を上回ったと考えられる。

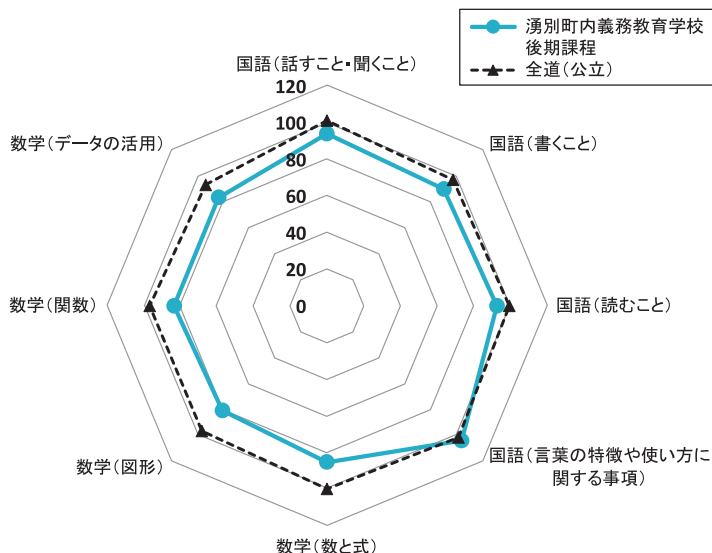


義務教育学校後期課程（学校数：3校、児童数：34人）

義務教育学校後期課程では国語（言葉の特徴や使い方に関する事項）で全国および全道平均を上回りました。

【教科全体の状況】

教科の領域別に **全国を100** とした場合の全道および湧別町の状況をレーダーチャート（グラフ）で示したもの
 （湧別町の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）
 理科の結果は、IRTスコアで表されるため、レーダーチャートに表示していません



【湧別町の学力向上策】

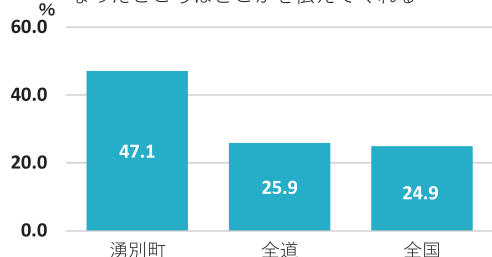
- 湧別町型学校学力向上事業に基づく授業公開や研修事業の実施
- 全国学力・学習状況調査などを活用した授業改善や学習習慣の確立
- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた学び合いの授業やICT端末の効果的な活用
- 学力向上支援員や特別支援教育支援員などの配置の充実
- 長期休業を活用した高校生ボランティア学習サポートの実施
- 学校図書館支援事業による読書活動の推進



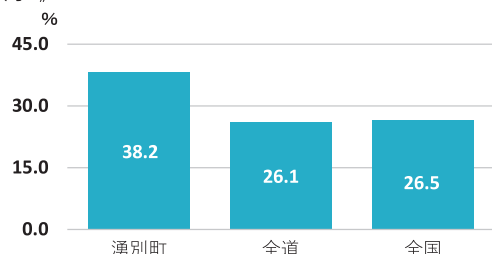
町ホームページでは過去の調査結果も公開しています

【生徒 質問調査】

《全般》先生はあなたの良いところや前よりできるようになったところはどこかを伝えてくれる

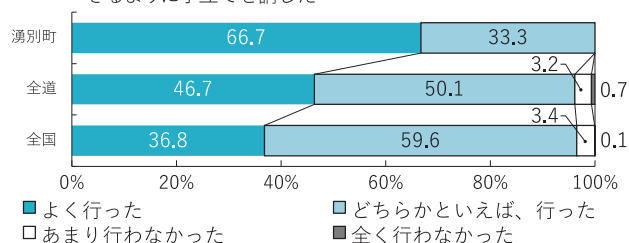


《数学》数学の勉強は好き

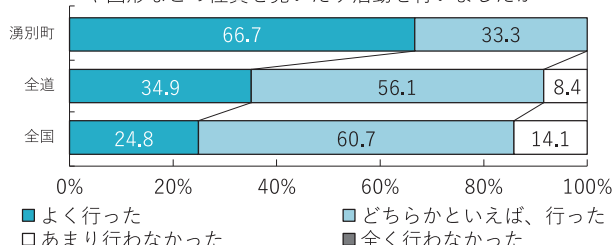


【学校 質問調査】

《全般》生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じた



《数学》調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行いましたか



【分析】

●国語の授業において、前年度までに生徒に学習の状況について改善すべき点を伝え、改善できるように手立てを講じたことにより、先生はあなたの良いところや前よりできるようになったところはどこかを伝えてくれると回答した生徒の割合が全国・全道を上回ったとともに、国語の「言葉の扱い方に関する事項」で平均正答率が全国・全道を上回ったと考えられる。

●数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験などの活動を通して、数量や図形などの性質を見いだす活動を行ったことにより、数学の勉強は好きと回答した割合が全国・全道を上回ったとともに、数学の「図形」の領域で平均正答率が全道・全国に最も近くなったと考えられる。